



大本山妙心寺650年遠諱大法会記念参拝 平成21年10月5日

(遠諱のご報告は5ページをご覧ください)



釈尊伝時絵が出来るまで

昨年6月に安置された釈尊伝時絵については、地元のテレビ新聞等で紹介されたこともあり、多くの方にご参拝を頂きました。参拝者の方には出来る限り時絵の説明をして参りましたが、解説書が欲しいという声が多数ございましたので、今回から時絵の見どころを紹介させて頂きます。(尚、画像は時絵表面の光沢を取り除く加工を施しています。実際の時絵の美しさは画像では表現できません。是非実際に御参拝頂ければ幸甚と存じます。)

時絵が出来るまで

この釈尊伝時絵は平成17年2月に終了した本堂耐震工事によって生じた耐震壁を布教伝道に役立てようと思いついたものです。実は小納が壁画の計画を思い付いた時に、既に壁画の制作方法は決めていました。それは当山の檀家である佐浦康洋氏が経営されている東北工芸の時絵の技術です。以前、小納は東北工芸さんから頂いた石材に漆を施した作品を拝見し、塗る物を選ばない技術力と発想の柔軟性に少な

らず感銘を受けたことがありました。本堂を荘厳し、布教の助けとなる品を、県内の技術しかも檀信徒の営む会社で制作することが出来たならばこれ以上に素晴らしいことはありません。早速、小納の構想を佐浦氏に相談すると、氏も大いに乗り気で、時絵師の渡辺栄一先生を紹介して頂き、時絵の計画が動き出したのです。時絵で表現する題材はお釈迦様の生涯と初めから決めておりましたが、時絵の制作には下絵が必要でした。やはり、下絵を描く人は仏教の知識があり、小納と意の通じる人でなくてはなりません。そこで、思い付いたのは布教師で本山の現代宗学委員会にてご一緒した平出全价師。師とは小納の古い友人である京都金牛院の小倉大岳師を通じて懇意になり、師が水墨画をなさるということで、この仕事を依頼したものです。実は小納、この時には平出師の絵を見たことが無く、何よりも師の篤い菩提心を信頼してのお願いでありました。考えてみれば無茶なことですが、平出師の従来の仏画にとらわれない自由な発想が、今回の仏伝画を非常に魅力的なものとしてくれたと思います。

ただし、蒔絵制作の行程はすんなり進んだわけではありません。平出師の得意とする水墨画の線は輪郭のはっきりした蒔絵の線とは、そのまま馴染むものではありませんでした。それから絵の依頼者である小納にも釈尊伝に対しての思い入れがあり、時には下絵の書き換えを求めることもありました。平出師には御自分の愛息とも言える絵に手を加えられ、不愉快なこともあったかと存じますが、胸中に留めて頂いたことを申し訳なく思います。また蒔絵師の渡辺先生には下絵を何度も書きし、その都度下絵の構図を生かしながら線を蒔絵に合うものに描き改めて労力に心より敬服致します。

お釈迦様の人間的な苦悩を主題とする

「釈尊と家族の関わりと人間的苦悩を主題とするが、経典に描かれる神々や悪魔達も効果的に採用し、それらの神秘的力に対する佛の智慧の優位性を表現する。」上記は下絵を平出師に依頼した際の文書です。昨年安置された蒔絵はお釈迦様の前半生を描いたもので、托胎から、35歳でお悟りを開かれる場面を描写しています。実は成道後

いは成道後に初めて説法を行い弟子が誕生し、鹿野苑（ろくやおん）で仏法僧の三宝が揃うまでの一連の出来事は、纏まったかたちで幾つかの経典のテーマとなって説かれています。今回はその中でも、方廣大莊嚴経や本生経（ジャータカ）を主に参考にし、小納が思い入れのある出来事、数場面を選び、そのシーンで平出師のイメージで絵にするというかたちで作画が進められました。

作画にあたっては参考としてインド鹿野苑の初転法輪寺の壁面に描かれる野生司香雪画伯による釈尊伝図の写真集等を提供しましたが、平出師はこれらを参考にしつつも独自の構想にて筆を取られたようで、非常にオリジナリティ溢れる作品となりました。それでは各場面の見どころと制作にあたっての蒔絵の技法を説明いたします。蒔絵の技法解説は渡辺先生によるものです。

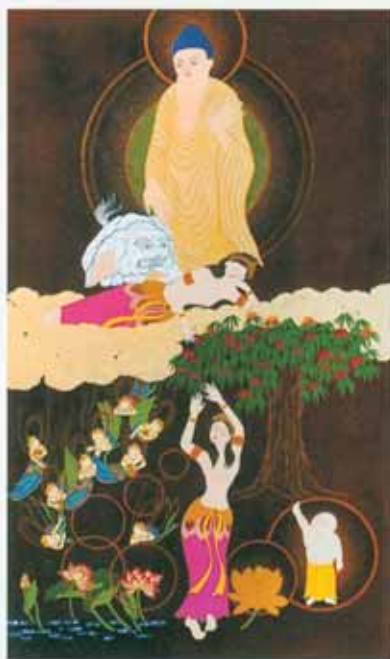
仏伝画

◎托胎と降誕

何度も生まれ変わり善業を積んだ菩薩（後のお釈迦様）は兜

卒天にて燃灯仏より、来世において悟りを開くという授記を受け、六本牙の白象の身を借りてマヤー夫人の母体へと入られました。

六本牙の白象が体内に降りる夢を見たマヤー夫人は、これを占い師に話したところ懐妊であると告げられます。お釈迦様の父上スットダーナ王とマヤー夫人はなかなか子宝に恵まれません、待ちに待ったお子様が菩薩であるところのゴータマシッダルタ王子でした。御承知の通り菩薩はお生まれになって直ぐに東西南北上下に七歩進まれ、片手は天を指さし、片手は地を指さして「天上天下唯我独尊」とおっしゃいました。蒔絵には蓮の花が描かれています。それは菩薩の歩いた足跡に蓮の花が咲いたことを表しています。またこの蒔



絵では七歩歩まれたことが、七つの円相にて表現されています。

◎お釈迦様の少年時代

菩薩がお生まれになるとアシタ仙人という方が菩薩の将来を占いました。アシタ仙人は菩薩を抱くとポロポロと涙を流します。心配したスットダーナ王が理由を尋ねると、アシタ仙人は、「王子は素晴らしい素養をお持ちで王の後を継げばインド全土を統一する転輪聖王となるでしょう。」とスットダーナ王に告げます。これを聞いて大喜びの王でしたが、仙人は王子にはもう一つの未来が見えると言います。これこそが出家の道で、出家をなされば完全な悟りを開いて仏となられることを

予言するのです。しかしアシタ仙人は老齢の為に、その立派に成長した姿に接する事が出来ないという我が身の悲しさの故、涙を流したのでした。

スットダーナ王は王子が出家することなどという話は一瞥もせず、王子が大王となり小さな王国であった釈迦族を巨大な国家としてくれることを信じておりましたが、成長した王子の姿は、王の期待に大きく反するものでした。大人しく思慮深い王子は虫を他の生き物が食べるのを見て、心を痛めるような優しいお子様だったようです。釈迦族の慶事である「種まき祭り」の日、喧騒をよそに王子はジャンプ樹という大木の下で心を凝らしてジツとしていました。すると今までに体験したことのない清々しさを体験したのです。これこそが王子の初めての坐禅でありました。その神々しい姿には神々も上空を飛ぶことを躊躇したと伝えられます。このような王子の姿にスットダーナ王は王子の出家を危惧し、およそ無常を感

じると思われるものを王子の眼から遠ざけたのでした。(次号へ続く)

東園寺本堂仏伝蒔絵に用いられた技術

解説 渡辺栄一

*高蒔絵(たかまきえ)

ほとんどの人物、動物等は立体的に表現する「高蒔絵(たかまきえ)」と呼ばれる技法で製作しております。レリーフを立体的に盛り上げその上に蒔絵を行うことで視覚的に強い表現が行えますが、作業工程が複雑で多く、なかなか難しい技法です。

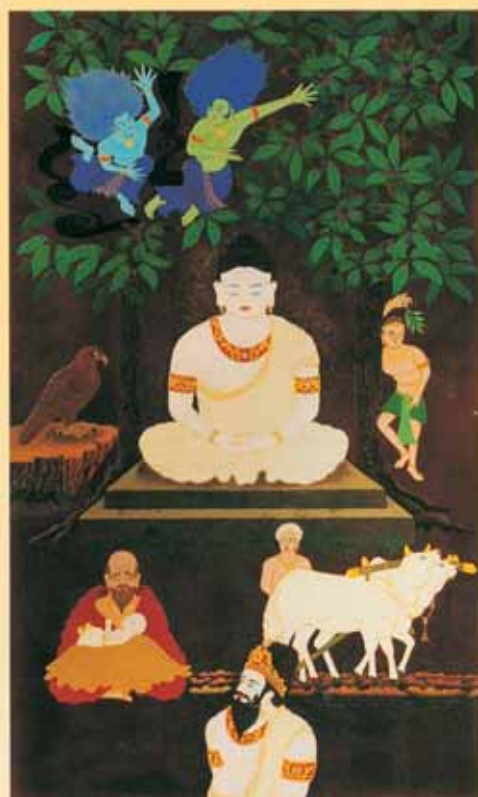
*研ぎ出し蒔絵(とぎだしまきえ)



樹木、葉、火炎、雲等に採用している技法で金粉、乾漆粉などを蒔いた画面の上に彩漆や透き漆を塗り研炭で研ぎ出す方法。金一色の派手さをおさえ、奥ゆかしい画面をつくりだすことができます。

*梨地(なしじ)

粒子は粗いが平目粉より厚みの薄い金





出し、磨き上げて仕上げたもので、虹色の強い輝きがあり、



青貝細工とは、あわび貝をグラインダー等で薄く加工した貝片を様々な文様や細い短冊状に切り出し、漆器面に漆で貼り付けた上に黒漆等を塗りこみ、乾燥後研ぎ

＊青貝、螺鈿細工（あわがい、らでんざいく）

薄蒔き、濃蒔きなどがあり、豪華な江戸時代の大名家の調度品や刀の鞘塗り等によく使われています。



粉で、平目粉と同様の表現に使用します。釈迦誕生図、樹下瞑想図等で樹木の表現に使用しています。輝きは穏やかですが、華やかな表現ができます。作業工程は平地と同様ですが、



できない真つ白な表現を可能にします。卵殻の内側の薄い膜を丁寧に剥ぎ取り、表裏がわかるよう内側のみ墨汁で黒く塗り、

＊卵殻塗（らんかくぬり）

鶏卵やうずらの卵殻を使用し、漆では表現を可能にします。卵殻の内側の薄い膜を丁寧に剥ぎ取り、表裏がわかるよう内側のみ墨汁で黒く塗り、

蒔絵の中に使用すると強いインパクトのある画面を構成することが出来ます。また伏せ彩色（ふせざいしき）といって貝の裏に金銀箔や色漆等を塗ってから使用する事もあります。釈迦誕生図で蓮池の水辺の表現に使用しました。螺鈿細工とはあわび貝、夜光貝（やこうがい）、白蝶貝（しろちようがい）等の厚く加工した貝を、糸鋸などで文様を切り出し、文様の形に掘り込んだ漆器面にむぎ漆（小麦粉と漆を混ぜたもので強い接着力がある）で貼り埋め込む技法で、貝を漆器面より高く盛り上げ立体的に表現する場合と、より深く埋め込んで平らに研ぎ出す場合とがあります。壁画ではお釈迦様や、他の人物、動物の目などに使用しています。

漆を塗った上に卵殻表の白い面を上にしてモザイク状に貼り付け乾燥後、白漆や黒漆を何度も塗り込み、丁寧に研ぎ出し磨き上げて仕上げます。また卵殻片の割り方で様々な表現が可能になります。釈迦誕生図で六牙の白象の表現にうずらと鶏卵を併用して採用しています。

＊その他の技法

乾漆塗（かんしつぬり）



乾漆塗とは色漆をガラス面などに何度塗り重ね乾燥後、剥がして葉研（やげん）、乳鉢で細かく砕いて作った粉を漆を塗った上

に粉筒で蒔きその上に色漆や透き漆を塗り、研ぎ出し磨いて仕上げます。壁画では菩提樹やジャンプ樹の葉、降魔成道図の火炎の表現等に金粉と併用して使用しています。金粉と併用することで色漆だけでは表現できない落ち着いた色合いや色漆だけでは不安な退色を極力防ぐ効果が期待出来ます。（この解説も次回へと続きます。）

大本山妙心寺開山無相大師650年遠諱

団参報告大本山妙心寺開山無相大師650年遠諱団参参拝

東園寺執事 松林寺副住 稲富裕幸

平成21年は妙心寺の開山（初代住職）さまの650回忌にあたります。この50年毎に行われる大法要のことを「遠諱（おんき）」といい、妙心寺ではこれを機に「どう活かす わたしのいのち」をテーマとして掲げ、大法要のほかさまざまな記念事業を通じて、「いのち」の大切さを世に問いかけて参りました。

去る10月5日より2泊3日の旅で、東園寺から25名の壇信徒有志の皆さんとともに大本山妙心寺に参拝して参りました。



妙心寺山内大心院様

午後2時より法堂にて起雲軒老大師導師のもと遠諱法要が厳修されました。法堂には宮城福島教区の500人もの壇信徒と僧侶で埋め尽くされました。瑞



大本山東福寺様

日曜日朝7時は坐禅会

巖寺での開山忌の重々しい雰囲気とはまた違うものがあります。普段とは違うピリッとした張りつめた空気。維那は、東園寺住職の朗々としたお経。法要後は、皆さんで記念撮影、妙心寺山内の玉鳳院、開山堂を拝観致しました。無相大師関山慧玄禪師は、妙心寺派の寺院にとって最も大切な方になります。50年に一度の開山様の遠諱に参拝できるといふことは、すばらしい法縁のめぐりあわせです。次の50年後の700年遠諱の時、私はちょうど80歳。

元気なうちに参拝できたことはとても貴重な体験をさせて頂きました。そのことは、今回団参に参加された25名の壇信徒の方々も同じ気持ちだと思えます。50年後は、自坊の壇信徒の方々と参拝したいものです。

ご年始に東園寺にお参りに来られた方々にお渡し致しました『その本を務めよ』。

私たちに一番重要なこと、それは己自究明にはありません。一度、静かに坐って、自分を見直して見ましよう。禪宗と言え、坐禅です。坐禅は、お釈迦様のお悟りの姿です。身を正し、息を整え、静かに坐る。

禅はすぐれた思想に裏付けられていますが、単なる



大本山萬福寺様

思想ではなくて、苦惱克服の仏の教えをわが身において体現する実践の道であります。そのために、きわめて重要な手段としまして、坐って心身一体となつて行じる



坐禅があります。禅は行（行動）・住（暮らし）・坐（坐り）・臥（眠り）の日常生活のいずれを問いません。行動する時も、坐禅中も三昧の境界を必要とするものであります。日頃は、いろいろな対象に自己を奪われて生活をしている私たちは、自己自身の足元を見つめるチャンスを見失いつつあります。坐禅によって、今一度自己自身を振り返ってみましょう。

エレベーター計画変更のお知らせ

昨年の7月発行の会報で御案内しているエレベーター計画ですが、当山の境内が土砂災害特別警戒区域に指定されることにより、建築物（エレベーター

1棟）の建立が非常に難しい状態となりました。そこで代替案としてモノレール設置の計画致しております。

モノレールの利点としては、

①建築許可が不要であること。②建築費用がエレベーター計画の6割程度に抑えられること。③建物の将来的なメンテナンスが掛からないこと。

尚、協力金については、檀信徒各位の自由意思とさせて頂きます。また、このエレベーター設置に伴い駐車場の整備や、幼稚園園庭の整備も併せて行う予定です。実際の募財が始まりますのは年末になるかと存じます。何卒ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。尚、募財の一口は3万円程度となる予定です。計画の変更に伴い予算等の呈示はお盆過ぎにさせて頂きます。



12人乗りのモノレール

本堂耐震工事 借入金

完済のご報告

平成18年度に終了した本堂大改修に伴う借入金の返済が本年3月を以て終了致しました。同事業は、将来高い確率で発生が予想される宮城県沖地震に備える為の耐震工事でありましたが、檀信徒の自由意思での普請であつたにも関わらず、多くの檀信徒の方々にご協力を賜り、当初予算よりも短い期間で借入れを返済することが出来たことをご報告申し上げます。

行事報告

○別院不動堂大祭

10月17日別院不動堂の大祭が厳修されました。法要後は青松会の加担によるイモ煮会が実施されました。

○成道会 墨蹟展

去る12月18日、お釈迦様のお悟りをお祝いする成道会が開催されました。午後5時成道会法要に先立ち教化センターにて妙心寺歴代住持及び歴代管

長の墨蹟が展示され、禪僧の墨蹟の魅力についてというお話をさせて頂きました。成道会の夕べは役員、法話会、詠歌部、青松会の会員の皆さんにご案内しております。来年度の参加を希望される方は、法話会か青松会（青壮年部）に入会して下さい。お問い合わせは東園寺迄。

○除夜法要

12月31日11時30分一年の行い反省し、新年の安寧を祈念する除夜法要が厳修されました。除夜の鐘を叩いた方には千支のお守りキーホルダーが配られ、青松会の加担により、年越し蕎麦、おでん、甘酒が振舞われました。尚、おでんはかまぼこの水野様、甘酒は阿部亀様からご供養して頂きました。



会員募集中
詠歌部
青松会(青壮年部)

○第五回涅槃会

チャリティーコンサート

第五回となった涅槃会チャリティーコンサートは2月14日、伊達藩四大絵師に数えられる塩釜出身の絵師小池曲江筆の涅槃図の下、建部絃子さん谷内奈実子さんによるピアノとフルートのコンサートが開催されました。約110名の参加者皆さんはピアノとフルートの絶妙のハーモニーに和やかなひと時を過ごして頂けたようです。尚、当日ご協力頂きました募金は263025円に達しました。全額を国際仏教交流協会が運営するインドブ



ダガヤ日本寺光明施療院に寄付し、投薬の費用として使用して頂きます。涅槃会コンサートは檀家さんに限らずどなたでも参加して頂ける行事です。毎年2月中旬の日曜日に実施しています。来年は是非ご参加を！

尚、出演者のお二人には募金にも多大な協力を頂きました。心より御礼申し上げます。

墓地情報

境内墓地でございます。

永代使用冥加金三十万円より。後継者が居られなくても墓地を使用できる夫婦墓や個人墓もございます。



法燈行脚の本が妙心寺遠諱局より発行されました。

ご希望の方は寺務所にお立ち寄り頂ければ差し上げます。

(1月16日にお寺にお参り頂いた方には既に差し上げております。)

幼稚園だより

塩釜中央幼稚園☆塩釜第三中央幼稚園



写生会（中央）



お店屋さん（第二）



プール遊び（中央）



農業体験（中央）



運動会（第二）



お茶のお稽古（第二）



書道教室（中央）

たのしい思い出いっぱいのはいの1年間



お遊戯会（中央）



お遊戯会（第二）

大根の収穫
（第二）



ファミリーコンサート（第二）



坐禅（中央）



お遊戯会（中央）



もちつき大会（第二）

永代供養を考える前に

「うちは後継者がいないから、無縁仏!？」

・名字は違っていても親族（6親等以内の血族、法定血族も含む。）の方で継続して墓地を管理し供養する意思のある方は、永代使用料無しに墓地を引き継ぐことが出来ます。

・但し釈迦牟尼仏を本師と仰ぎ、禪宗初祖達磨大師及び歴代祖師を尊崇し、先祖の供養を継続して當山で行うことを希望する血縁の方に限ります。當山の宗旨と相容れない他の宗教を信仰しておられる方については、墓地の継承をお断りすることがあります。

・墓地を親戚に引き継ぎたい場合には、必ず當山にご相談下さい。

それで永代供養を望む方は…
境内墓地を使用している方の場合。

・墓地は墓石を撤去の後、當山に返却して頂きます。返却後の墓地使用権に付きましては、この権利を喪失します。権利を親族以外の方には譲渡出来ません。

・墓地返却後のご遺骨は、釈子塔に安骨します。

■釈子塔とは？

・釈子塔は合葬墓です（御遺骨は他の方と一緒に納骨されます。）

・當山歴代住職の墓地も兼ねておりますので香華が絶えることがありません。

・釈子とはお釈迦様の子供という意味です。戒名を授かり仏教徒として供養されるものは、すべてお釈迦様の子供であり、東園寺の弟子として埋葬供養されます。

・合葬されますので安骨後のご遺骨の返却は不可能です。

・供養料は一霊位10万円です。但し、墓地撤去により多数の方の納骨が一度に為される場合の供養料に関してはご相談に応じます。



これからの行事

花祭りの夕べ

平成22年 4月11日⑤

午後5時 東園寺

◆講師／平林寺副住職 松竹寛山老師

◆会費／大人 3,000 円（高校生以下 1,000 円）

※チケットは寺務所でお求め下さい。

法話と
花祭りパーティー!
今年は馬頭琴の
演奏もごぞいます。



宗教法人 東園寺 〒985-0026 塩釜市旭町4-1

学校法人 東園寺学園 〒985-0012 塩釜市芦畔町13-51

代表役員 千坂成也 理事長 千坂秀也 花園会・会長 阿部久壽

022(362)0777 寺務所

022(362)8651 中央幼稚園

022(365)5616 第二中央幼稚園

022(364)4444 FAX

東園寺ホームページ <http://www.toenji.com>

坐禅会法話会の情報はYahooブログ「布袋の袋」

